

すべての与えを 喜べる心の成人を



大教会屋根雪下ろし（上写真）、少年会スキー交流会（下写真）。記事はともに 4 頁



発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029 北海道
岩見沢市9条西6丁目21
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com
ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

お知らせ

月次祭 3月15日(土) 9時30分開扉献饌
祭典終了後、春季霊大祭
春の学生おぢばがえり 3月28日

理を信じて ぢばへ教会へ、心を運ぶ

春季大祭の様

昨年末に道央地方を連日の大雪が襲い、大教会のある岩見沢も例年以上の雪に覆われ、除雪に難儀する人が多かった。年明けには打って変わって、真冬には珍しい程の暖気が続き、市内で落雪や除雪作業中の事故が多発していた。

大教会でも降り積もった雪が屋根を圧迫し、危険な状態となっていたため、14日には大教会長含む役員・教会長・青年の有志15名によって、神殿や客殿をはじめとした屋根の雪下ろしひのきしが行われた。

この日の気温も高く、落雪の危険と隣り合わせの作業となったが、お互いに声を掛け合い様子を見ながら進め、懸念された箇所を雪を下すことができた。

またこの日の作業に心を寄せる婦人さん達が、それぞれ茶菓子やおはぎ、炊き込みご飯などを持ち寄って下さり、ひのきしに疲れた体にはありがたい栄養補給をすることができた。

迎えた15日、春季大祭の日も気温が高く、厳冬の北海道とは思われない程の陽気となった。定刻9時半より開扉献饌。祭儀式のち祭文奏上。その後、座りづとめ・十二下りののをどりが勤められた。献饌の際には、部内よりお供えになった大きなブリが運ばれ、参拝者の注目をひときわ集めていた。

講話に先立って、前日に行われた大教会の雪下ろしひのきしんに参加した人たちが、心を寄

藤田大和 大教会長



神殿講話全文は、右のQRからご覧いただけます



せた婦人さんたちに、大教会長は謝意を述べられた。また、12月末に出直された、錦之旗分教会七代会長の柴田博行氏について大教会長より話があり、先生のお出直し前のご様子や、これまでの功績を称えて、黙祷を行った。

講話には大教会長が立ち「おやさまが現身を隠された、1月26日のその直ぐ後に、船場大教会初代、梅谷四郎兵衛先生が奥様に書いた手紙があります。これを読むと、26日に行われたかんとるだいでのおつとめについて、その様子を窺い知る事ができます。初代真柱様をはじめとした先生方が、命捨てても、という覚悟でおやさまの回復を願って勤めたおつとめですが、教祖伝を見ると、おてふりの人はいたんですが、鳴物の手は揃ってなかったそうです。イメージでは鳴物の手も揃って賑やかに勤め

てそうなんですけど、そうではなかったんです。

実は梅谷四郎兵衛さんはおつとめに出ないんです。手紙にその経緯が書かれているんですが、そのおつとめの前に呼

び出されて、勤めた人たちが皆警察に連行されてしまったら、教祖をお守りする人がいなくなる。だからお前は残ってくれ、と頼まれたそうなんです。教祖の身上が差し迫る中、お屋敷に集まった人たちの緊迫した様子が、この手紙からも伝わってきますね。

前会長さんが昨年出直されましたが、これは私達夕張に繋がるみなさんにお見せ下された、神様が与えたふしである、と思うのです。おちばの真柱宅にてひのきしんをさせて頂いた時、はるえ奥様より、『辛いやろうけど、このふしを活かしてな』と励まして頂きました。

私は最近、信者さんとお話しするときに、『神様と自分の間に、道をつけさせてもらいましよう』という事を言います。例えば草むらを一歩い

たら、ちょっと足跡がつかます。これを度々繰り返し返していたら、いつか草むらの中に歩いた道ができますね。その道を歩いて、神様のところに行く。そうすると同じ道を通って、神様も僕たちのもとにきてくれるんだと思うんです。

これは運命という話です。私たちの人生の運命として、足を運ばしていただければ道がつく。そうすると神様が私の家にも来てくれる。会長さんたちがおちばに運んでくださる、まずはおちばと教会の間の道がだんだん濃くなりますね。

教会までは会長さん、奥さんが運んでくださったように、神様が教会まで来てくださいますので、そこに今度信者さんが教会に運ぶでしょ。そしたら今度は教会から自宅まで道ができるから、神様が来てくれるんだと思うんです。

おせちひのきしんの時に、不思議なことが1つありました。昨年12月に、北八洲分教会の様子を見に行きました。三嶋先生が出直し

てから無人となって、手を掛けられない状態になってしまったから、さぞご迷惑を、と思いの家にご挨拶に伺いました。すると、貴方たちを信頼していると言われ、こちらの状況もよく分かって、後処理についても『急がないからゆっくりやってくれたらいいよ』と大変温かい声を掛けて下さいました。

それから年が明けて、おせちの餅焼き場のひのきしんをしていた時、目の前に来た修養科生さんから、『私も北海道です』と声を掛けられました。函館だというので、北八洲の教会の事を話すと、家がすぐそこだったんです。そして教

会長の事をお陰だと思つた次第です。また種は、決して消えないのです。理というものを信じて、この1年頑張りたいなと思っております」と話された。

祭典後には、奉仕者、参拝者総出で撤饌と参拝場復旧、それにお下がり作りのひのきしんが行われ、お供えされたブリは切り身にして、参拝者に配られた。また、神殿では、進級進学お願いとめが勤められ、健やかな学生生活が過ごせるようにと祈りを捧げた。

先日会った隣の方の話をすると、『隣の方と、そんなにいい関係だったんですね。今度床屋で言ってみます』と嬉しそうに話されました。人の心の誠ですよ。足を運ばせてもらった分、神様が理を見せてくれるというのは、こういう嬉しいことがあるんだな、と。代々庄市先生、正行先生が運んで下さったお陰ですし、前会長さんのお陰だと思つた次第です。また種は、決して消えないのです。理というものを信じて、この1年頑張りたいなと思っております」と話された。

(藤崎勇)



進級進学お願いとめ



大難を小難、小難を無難に お守りいただいて

祝梅分教会 ようぼく 伊藤 伸幸

46歳 北海道早稲田情報科学専門学校卒業
妻、節子さんとの結婚をきっかけに入信。子ども
の身上をたすけられたことで信仰は進み、現在は
多忙な中、祝梅若人会委員長を務める
大教会 HP に、未掲載部分を公開 (右 QR コード)



あなたと自然体の信仰を語る



夕張につながるようばくさんの中から、年祭に向かうこの旬に、心勇んで活躍される「キ」になる方にお話を伺いましたので、ご紹介いたします。

信仰の元一日は

いつ入信したのかという明確な時期は覚えていなくて、気が付けば今の状況になっていた、というのが正直な実感です。

実家は仏教ですし、他にはキリスト教くらいしか宗教というものも知らなくて。妻が天理教を信仰していることも、結婚することになって、初めて知りました。

信仰が前進する

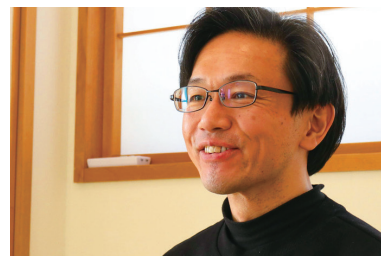
きっかけはありましたか

子どもが生まれてすぐ、耳の下に血管腫ができて、それが徐々に大きくなり、病院でも手術をしないと治らないと言われてしましました。私も妻も、やはり大きな不安がありました。太志会長様や美津志前会長様のおさづけ、また教会のみなさんの真実があつて、小学校へ上がる前にはだんだんと小さくなり、今は無事に治まっている状態です。

その時のおさづけや、教会に運ばせていただいたこと、そうやって親神様におすがりしてたすけられた経験が、自分の心に大きな影響を与えたことは間違いありません。やっぱり神様はいるのかなというのを、目の前で起きている現象から感じましたね。

教会はどんな場所ですか

一言で言えば、心の拠り所です。家で話せない悩みとか、教会に行くと少し解決する気がしますね。やはり自宅では考えられないようなことでも、心が切り替わり、考え方が変わるのかなと思います。大教会に運ばせていただいたときも同じですが、ああこういう風に思えばいいのかなとか、そういう



おふでさきのお言葉に 気づかされる瞬間が

う感じになりますね。

月次祭はどんな時間ですか

素直な気持ちで話せば、最初のころは抵抗感もあり、なんで行かないとダメなのかなという思いもありました。しかし、身上事情を通る中で、神様に大難を小難、小難を無難におさめていただいている実感があつたので、そのお礼を込めて今は勤めさせていただいているという感じですね。

自宅での信仰実践は

毎朝夕、おつとめをしています。平日は、夫婦そろって勤めることが難しいことも多いですが、お休みの日は一緒にしています。それと朝には、おふでさきの拝読をしています。その時々、今の自分における状況と似たようなお言葉があり、そこから気づきをいただいて、仕事に取り組んでいます。

若人会について教えて下さい

将来共に立派なようぼくに育ち、育てようという活動です。

基本的には、月一回程度、活動を行うようにしています。おてふり練習や雅楽練習など、できる人に教えてもらいながら、少年会員たちが習うという形をとっています。鼓笛練習会もありますね。でも今は、まだ少年会員が小さいので、まずは楽器に触れるなど、慣れてもらえればいいかなと思っています。

他には、若人会総会や、春や冬の一日少年会、夏季練成会などを開催しています。遊びをメインにすることもありませんが、そういった機会を通して、信仰を深めてもらえればと思っています。

次代に信仰を伝えるために

必要なことは

私自身が、言葉で伝えることは、今は難しいと感じているので、若人会の活動など、その背中を見てもらいながら、なにか感じてくれたらいいなと思っています。

でも、自らの経験で言えば、親に相談して、教会と一緒に参拝させてもらったり、そうやって神様にもたれる経験を通じ、悩みが解決していけば、私のように心が変わるかもしれないですね。

